

宮城復興

M I Y A G I 東♥北 R E C O N S T R U C T I O N

鈴木 千尋
高橋 伶奈
田中有里佳

～東北の今、知っていますか？～

Comments

復興予算は2011年度以降、減少している。宮城県の人口は震災の影響を大きくは受けず、2011年と比べるとおおよそ増加傾向にある。震災直後には、プレハブ仮設住宅が急速に増加したが、東日本大震災の入居者数ピーク時は民間賃貸借り上げ住宅の方が上回る事となった。しかし、3年が過ぎた今、民間借り上げ住宅の方が自立が進み、プレハブ住宅の方が残っている人が多い現状がある。一戸当たりの人数の変動からみても、徐々に減っていく傾向にあり、より状況が厳しい人が残っていく様子がうかがえる。

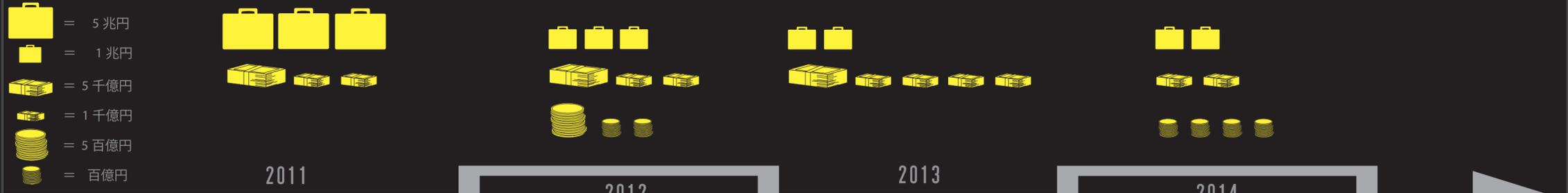
プレハブ仮設住宅においては、空いてしまった仮設住宅の活用方法などが今後の課題である。コミュニティについては以下のとおり。

Case1
南三陸町馬場中山・歌津地区
村人と全国のボランティアで、トイレや風呂をはじめ避難所以上の規模の宿泊施設までも完成させた。漁業復興「なじよにかなるさーぷプロジェクト」では、ボランティアの援助、昔ながらの住民のコミュニティが称され2012年3月に日本クリエイション大賞を受賞。

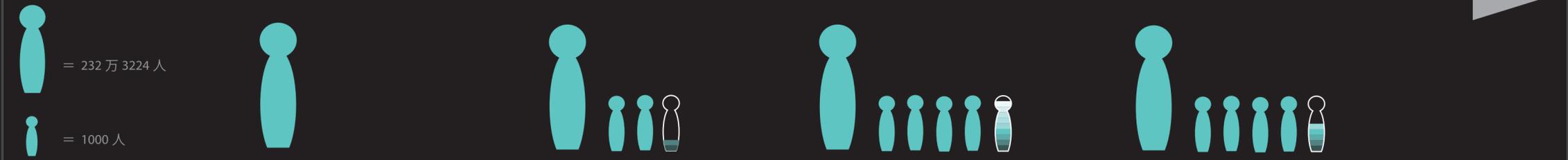
Case2
石巻市
「石巻工房」は地域のものづくりの場として街を興すため世界発のDIYメーカーとして誕生。東京のデザイナー、全国のボランティア、地域住民の力で作品や地域の憩いの場をつくり続けている。

Case3
岩沼市玉浦地区
東日本大震災の被災地で集団移転が最も進んでいる。住民と市でまちづくり検討会を発足し、自治体と住民が一体となりコミュニティを大切にしたいまちづくりを進めている。

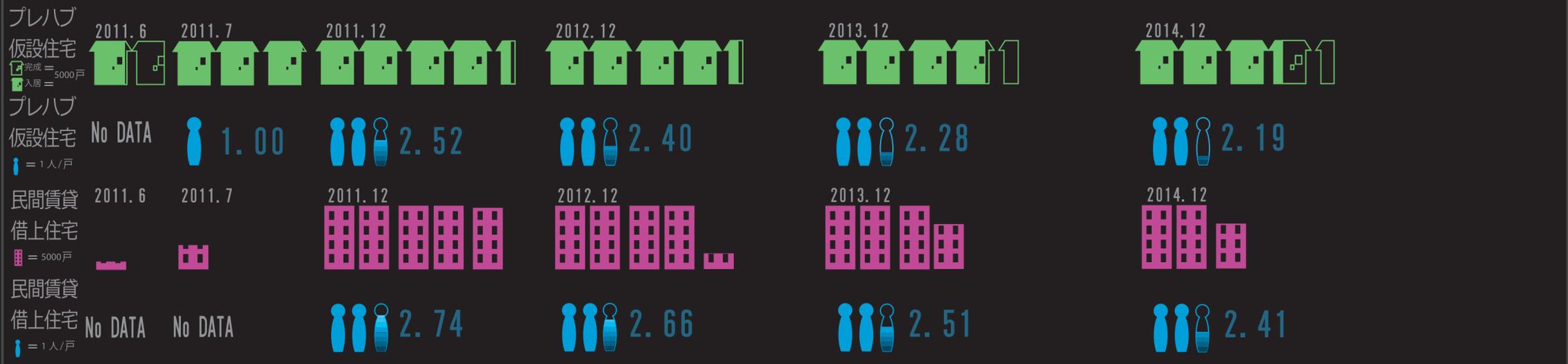
Fukko Yosai Reconstruction Budget



Population



Housing



Community

